



新 毎 日 新 聞 日

3月17日(火)

2026年(令和8年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

UACJ地球塾



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

「地球はこんなに美しい」次世代に伝えたい



環境問題と理想の地球について考える「#地球塾2050」が2026年1月10日、千葉県柏市の芝浦工業大学柏中学校で開催された。参加した生徒たちは世界の現状や資源に関する話を聞いて、理想の2050年の地球の姿や、そのために今自分ができることについて考え、それぞれの言葉でまとめた。

理想の地球のために行動する 生徒たちのMOTTAI NAI宣言



「地球はこんなに美しい場所だよ」2026年、そう思う人々はどのくらいいるだろう。2026年の地球の現状として「ロシア民主共和国」環境破壊が紛争や食糧不足などをもたらして、人々の平和な生活を奪っている姿が最も印象に残っている。2050年には、今の「大量

生産・大量消費」の風潮が変わり、資源を大切に使うことを、目指すのではなく当たり前になりたい。そのために「一人一人の選択が変化を生む」というジェーン・グドール博士の言葉を胸に、私はまず、節電やゴミの削減など、自分にできる10の行動から始めたい。「地球はこんなに美しい場所だよ」。2050年、大人になった私たちが自信を持って次の世代にそう伝えられる地球であるように。

「伊藤 愛実」

第一に、永続的な燃料の確保。現在の地球では永続的な燃料といえば、再生可能エネルギーのみであるため、地球に優



しいエネルギーを見つけなければいけない。また、原子力発電の弱点を克服したエネルギーの開発にも着手しなければならぬ。第二に、SDGsの達成である。本来、SDGsの達成には2030年までに期限を決めているが、2026年現在で達成の兆候が何一つ見られない。20年も伸びるならば、十分達成可能である。第三に核の所有禁止である。現在日本はアメリカの核の傘の恩恵を受けている。だが、日本は世界唯一の被爆国である。そこで日本は、非常任理事国としての立場とG7としての立場で今後も社会に訴えていくことを僕は切に願っている。

「川端 悠大」

自分は2050年までに海洋と大気汚染を今の50%まで減らしたいです。海が汚染されれば、自分の好きな海鮮が食べられなくなるし、大気が汚

染されれば単純に住み心地が悪く、人生が楽しくなくなりそうだからです。そのために自分は、株式会社UACJなどの技術の発展と環境問題への対処を両立している会社が多様な製品や物質、または気体・液体を取り扱っているのかを知り、自分と関わっていている人と協力して世界に広めたいです。ただ、周囲の人達を頼るだけでは少しハードルが高いと思うので、国連広報センターの佐藤さんなど国際的にも協力してもらおう機会があったら実現の可能性はかなり上がると思います。

「松井 奏太」

私は2050年では地球に住む人達の笑顔が絶えない地球でありたいと思います。そんな地球を作るために私がすべきことは、地球温暖化の進捗を遅らせることです。地球温暖化の影響で夏が異常に熱くなったり、自然災害が増えたりすることにつながります。当然安全に快適に過ごせないため世界中の笑顔は減ります。そのため私がやるべきことの第一目は、節電を心がけることです。節電をすることで多くの使用電気を減らすことができます。すると温室効果ガスの排出量を減らすことができるので、地球温暖化の進行を遅らせることができると思います。

二つ目は、物を大事にする事です。使うものは修理してからまた使って、まだ使えるけど自分が要らないときは誰かにあげて、とすると、ゴミが減ります。ゴミを燃やすのにも多くの温室効果ガスを排出します。だから、ゴミを減らすことで地球温暖化の進行を遅らせることができると思います。そのため私はこれを日ごろから意識するようにしたいと思います。

「村松 葉奈」

理想の地球のために必要なことは「環境との共存」だと思います。人間が地球で生きていくためには二酸化炭素を排出し、生活していくために何かしらの地球への影響は仕方ないと思います。でも、それを削減することはできないと思います。人間が、地球が生きていくために日ごろから努力していくといいと思います。アルミで作られたボトルのイラストも自然と人が描かれていました。私もそのような地球を目指したいです。そのためには、まず私たち一人一人ができることから始めるのが大切だと思います。たとえば、マイボトルを使ったり、電気をこまめに消したり、ゴミの分別をしっかりとしたりすることなどです。小さなことでも、みんなが続けられれば大きな力になると思います。2050年には、人と自然が無理をせず助け合いたいと思います。

「山崎 衣織」